



東日本大震災からの復興状況と 防災への取り組み

甚大な被害を受けた災害から復興5年間の歩みについて詳細なる説明を受け、さまざまな角度から対処していかねければ地域が崩壊してしまうことを痛感しました。その後、バスに乗り石巻港付近を視察し、まず驚いたことは、テレビニュースで見た瓦れきの山がすっかり片づき、広大な原野が目に見え、歩けるようになったことです。復興に携わる多くの人々のおかげで整備が進められたことに感動しました。

翌日さらに驚かされたことは、早朝6時ごろ「地震です。すぐに安全な所に避難してください」と緊急地震速報が流れ、震度4の地震に直面したのです。慌ててホテルの部屋から逃げ出しましたが、一時市内が騒然となっていました。

世界的に見ても、地震や洪水などの自然災害が頻繁に発生しており、美里町でも、過去に経験のない大災害が起きて

も不思議ではありません。

今回、石巻市の視察で学んだ貴重な教訓を生かし、美里町でも「災害に強いまちづくり」を議会一丸となって推進していかなければならないと考えています。町民の皆様におかれましても、一人ひとりが全ての災害を想定して、日々の備えを怠りなきようお願いいたします。

文教民生経済常任委員会
委員長 清水貞夫



寄居町議会との意見交換 11/11 金

寄居スマートICをはじめ、お互いの課題を共有することで、今後のまちの発展につなげることを目的に情報交換会を行いました。

3回目となった今回は、初めに寄居町三ヶ山にある「彩の国資源循環工場」の視察を行いました。施設内の埼玉県環境整備センターで建設当時の苦労話や埋め立て地の視察研修後、「焼却灰リサイクル施設」ツネシカムテックス埼玉株式会社の視察を行いました。

こちらでは、一般廃棄物・産業廃棄物の焼却灰、燃えがら、汚泥（無機性のものに限る）、鉍さい、ばいじんの受け入れを行っており、焼成工程を経て、土壌環境基準をクリアしたリサイクル製品「人工砂アークサンド」を生産、その処理能力は受け入れが1日300トン、生産は1日228トンとのこ

とでした。

このアークサンドが、安価な循環型リサイクル材として、ガス管・水道管等の埋設工事、水質改善用資材、雑草抑制資材等多面的に利用され、県内外で活躍していることに感動いたしました。

また、交流会では意見交換を行い、1日も早い寄居スマートICの開通を誓う大変有意義な研修会となりました。

副議長 橋場倅男

